

達人 Professional vol.41

2026年8月

特集

シン慈愛会、始動。

未来へ動き出す。

▶P4へ

Contents

理事長巻頭言 医療AIが医療提供のあり方を変える！

特集 シン慈愛会、始動。

経マネ掲示板/第6回慈愛会学会学術集会

医療DX最前線 DX TIMES

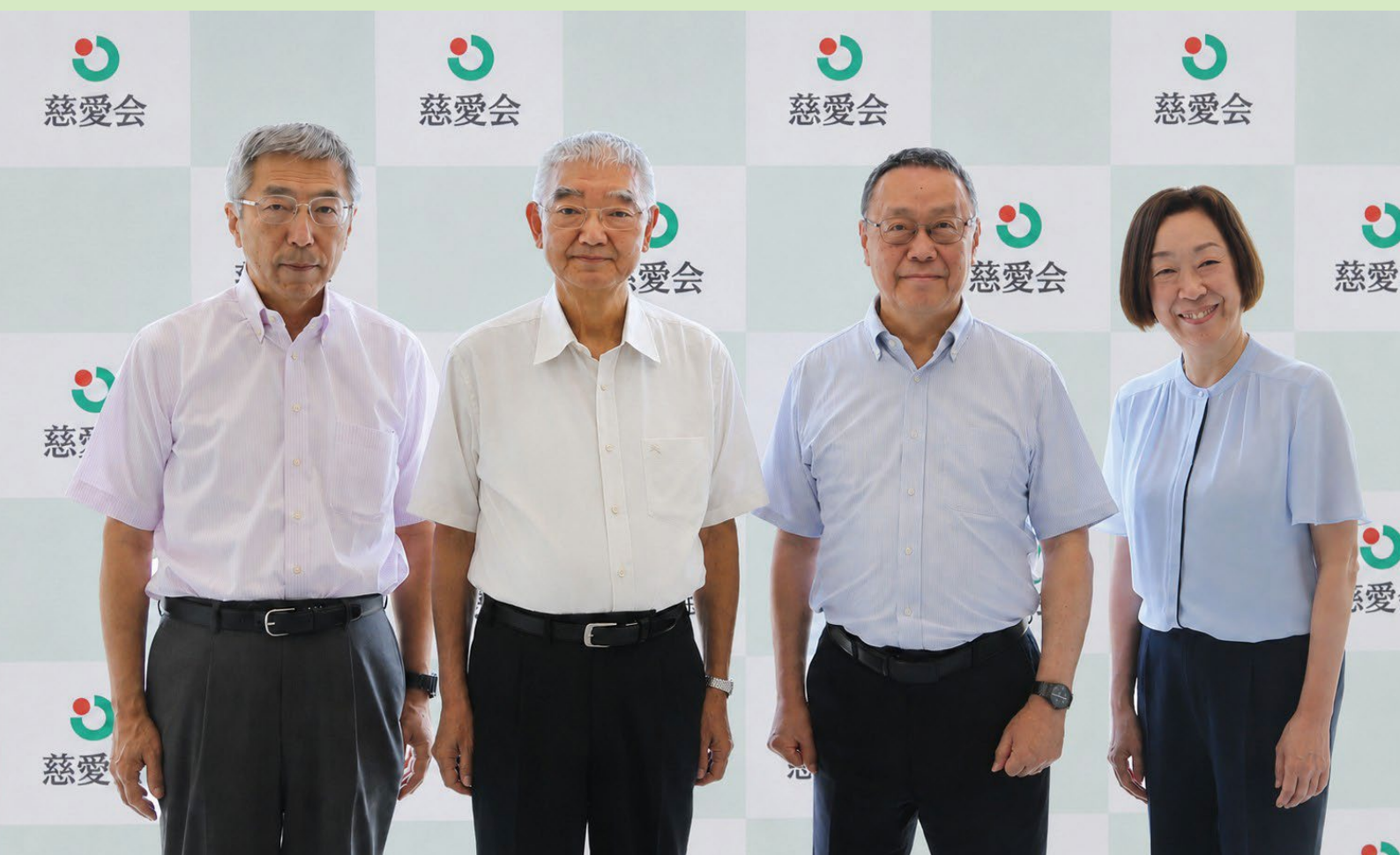
受賞おめでとうございます

私たちの取り組み紹介/NEWS&TOPICS

慈愛会のプロフェッショナルたち

私とフィロソフィ/リレーエッセー

人事情報



有島尚亮

事業戦略本部 本部長

兼

経営マネジメント推進室 顧問

帆北修一

副理事長

兼

経営マネジメント推進室 室長

兼

今村総合病院 名誉院長

常盤光弘

今村総合病院 院長

兼

慈愛会運営部 統括本部長

中谷明実

事業戦略本部 副本部長

兼

教育開発部 部長

Message 副理事長巻頭言

「現場が考え行動する」組織構築

▶P3へ



医療AIが医療提供のあり方を変える！

公益財団法人慈愛会 理事長 今村 英仁

当法人は2025年、「医療DXを推進するためには、一部のITに強い人材だけが関わっているだけでは不十分で、2,500名の慈愛会スタッフ全員が医療DX人材にならないといけない」と宣言しました。このことは、能登半島地震の際に大活躍した石川県七尾市にある恵寿総合病院の神野正隆理事長補佐に講演いただいたことから発したものです。

その宣言を踏まえて、これから必要とされる医療人材像として、右手に自分の職種の知識と技術、左手にマネジメントスキル（このスキルは、組織のマネジメントに留まらず、最後はセルフ・マネジメント、すなわち「生き方」そのものに繋がるものです……この点については、また機会を見つけてお話をしたいと思います）が必要となることを伝えました。そして、これからの医療機関は、「全員経営」が可能な組織にトランスフォーム（Jiaikai Transformationによる組織開発）しなければ、これからの医療界で勝ち抜くことは不可能であると……。

この宣言を、「スタッフ全員が、慈愛の心で鹿児島県民の健康を支える」という目標とベクトルを同じにして、活動を続けながら達成するためには、今まで以上に「直接対話」を大事にしなければなりません。一方、理事長は、3期目の日本医師会の役員を務めるために、これまでの体制で「直接対話」を増やすことは不可能です。そこで今期は、帆北理事長補佐に当法人の副理事長に就任いただき、理事長の全権を

副理事長にお任せして、法人運営を行う体制と致しました。理事長と副理事長が密な連携を取り、中央情勢を共有しながら、法人運営は全て副理事長が現場と「直接対話」を行いながら執行する体制です。電子カルテの入れ替えを来年に控える今年は、特に大事なポイントとなります。

医療DX－全員経営－組織開発（Jiaikai Transformation）－直接対話。一見、常人には不可能にも思えるこれらのパズルを解決する魔法の杖はあるのか？これが、去年までの疑問であり、同時に悩みでもありました。しかし、AIの登場をきっかけに、「この魔法の杖を手に入れられるのではないか？」と思い始めたのが今年の初め。そしてその思いが確信に変わったのがつい最近です。

この原稿は、山形県酒田市の精神科病院である山容病院を訪れ、小林和人理事長先生が今まさにやっている医療AI活用を見聞きした後にしたためています。オールドカルチャーだった精神科病院のトランスフォームのありようは、今までのスタッフを誰一人取り残すことなく実行しています。AIに伴走してもらうことで、常人が超人並みの力を発揮できるのがAIの最大の利点です。

あすなろの精神と亀の一步の慈愛会マインドが、AIのお蔭で誰にも負けない力を発揮できるようになる。

誰一人取り残されることなく、最後までお付き合いいただきますよう、よろしくお願い申し上げます！



巻頭言

「現場が考え行動する」組織構築

公益財団法人慈愛会 副理事長 帆北 修一

2026年6月1日付けで公益財団法人慈愛会副理事長を拝命いたしました帆北修一です。

今村英仁理事長の指示で、2025年5月より経営マネジメント推進室を設置して、慈愛会各施設を俯瞰して現在の課題を考える会議を始めました。同じタイミングで対面での理事長ミーティングを毎週月曜日に設定していただき、経営マネジメント推進室会議の議事を報告し理事長から今後の方向性について多くの提言をいただいております。

これまでの1年間の流れは、今村英仁理事長が日本医師会の常任理事3期目を2026年6月から引き受けることを念頭に置かれた行動であったと思います。今村英仁理事長は2期4年の間に2026年の診療報酬改定や2040年に向けての新しい地域医療構想に直接関与されることとなり、日本医師会常任理事としての3期目の重責を考えられた結果だと思っています。

今村英仁理事長の経営方針の基本は「現場重視」です。現在の立場では、直接慈愛会の現場にタッチする機会が非常に困難となったため、現場に行き今村英仁理事長の考えを伝え、現場からの意見を吸い上げる役割をする副理事長の役割を設置されたと考えます。さらに、2026年7月1日からは、本部・各施設での事務系幹部の改編として、バーチャル本部構想を含め、事業戦略本部（戦略）、慈愛会運営部（戦術）の設置等大きな構造改革が行われました。「本部」が何をしているのか？ 職員の皆さんからご意見をい

ただくことが多かったと思いますが、今後「本部」の役割が5W 1Hに基づいて職員の皆さんに迅速にご理解いただけるものになると考えます。バーチャル本部構想においては、各施設の事務長さん、看護部長さん、院長先生、さらには経営幹部の皆さんが経営の中心となり本部機能を担うことになります。

慈愛会は現在大きな転換の時期を迎えていると感じております。「理事長がこう言ったので・・・」は、今後「現場の皆さんがこのような考えたので・・・」という方向に変わっていかねばいけないと考えます。職員の皆さんがそれぞれにおいて経営者であるという考え方は、神輿を担ぐ場合に誰かが支えてくれるだろうという他力本願では神輿は持ち上がりず、自分が頑張って神輿を担ぐのだという心に繋がるものだと思います。これまでは「ベクトルを同一にして対応しよう」でしたが、ベクトルの方向性を決めるのも現場の皆さんということになります。

意識改革は安易にできるものではありませんが、「考え方」「心」がしっかりとしていれば、おのずと自立した組織が構築されるものと考えております。一人では何もできませんので、皆さんの協力にてこれからの慈愛会を築き上げていきたいと思っております。宜しくお願いします。

1. 医療経営塾「あすなろ」

医療経営塾「あすなろ」を5月29日に今村総合病院にて開講しました。第1回は今村英仁理事長が講演し、法人内外より50名近くが受講しました。2026年度は年6回開催予定で、9月には夏越祥次先生(医療法人玉昌会 加治木温泉病院 院長。元鹿児島大学病院 病院長)に講演をいただく予定です。多くの方々に受講していただけますよう準備を進めて参ります。

医療経営塾

経営マインドの醸成
医療人としての成長

あすなろ

仕事の基礎となる日本の医療制度
経営環境を体系的に学び
経営の視点を身につけます。
2026年度6回シリーズ。



申し込みはこちらから

第3回



講師 医療法人玉昌会
加治木温泉病院院長
夏越 祥次 先生

テーマ 鹿児島県における
地域医療連携

日付 2026.
9/24(木)

会場 今村総合病院 A棟4階大会議室

時間 17:00-18:30
会場・時間は各回共通

参加費 医師：2,000 円
その他職種：1,000 円
※慈愛会所属以外の方は一律 2,000 円
各回。当日会場でのお支払い。

医療経営塾あすなろ事務局 asunaro.medical-juku@jiaikai.jp

第4回
11/19
(木)

病床運営と
データ
マネジメント

株式会社アステム
コンサルティング部 主任

橋口 聡志 先生



第5回
1/28
(木)

医療DXを
自分ごととして
理解する

NPO 法人 かごしま保健医療
福祉サービスを考える会
理事長

宇都 由美子 先生



第6回
3月
(後日決定)

地域包括
ケアシステムの
全体像

公立大学法人
埼玉県立大学 理事長

田中 滋 先生



2. 慈愛会医療DXの推進計画

新しい電子カルテに移行するために、情報共有サイトの開設を行うなど、様々な準備を行っています。電子カルテの移行は全員参加型のプロジェクトとして進め、各施設が情報共有サイトを能動的に確認し、協議に参加する文化をつくることが重要となります。情報共有については、速度・正確性・双方向性を意識して進めています。

3. 医療・介護連携生活支援プロジェクト

支援概要としては、急性期から慢性期、在宅支援までの一体的な医療・介護の支援に併せ、病院・本部スタッフや外部専門家による生活面や経済面のサポートまで一貫して提供するものです。独居高齢者や高齢者夫婦においては、施設選定や、生活・経済面の不安が大きくなることから、一定のニーズはあるものと想定されます。将来的には、職員が専門資格を取得し、副業的に有償のコンサルサービスとしてビジネスモデルを構築することも視野に入れています。また、慈愛会職員向けに福利厚生の一環としての展開も検討する予定です。

第6回 慈愛会学会学術集会

—多職種が学びと交流を深める—

2026 年7月 25 日（土）、第6回慈愛会学会学術集会（大会長：福田恭哉 谷山病院 院長）を鹿児島県市町村自治会館で開催しました。今大会は「Adapt to New Conditions ～新しい状況にも順応する Jiaikai～」をテーマに、法人内の多職種による口演 24 題、ポスター 41 題、計 65 題の研究成果や実践報告が発表されました。活発な質疑応答や意見交換を通じて、施設・職種の枠を超えた学びと交流が深まりました。また、岩波明先生（こいしかわ発達障害センター センター長）を講師にお招きした特別講演「発達障害と社会参加～特性の正しい理解を踏まえて～」とディスカッションも行われ、多様性を尊重した支援や組織づくりについて考える貴重な機会となりました。

本学術集会を通じて得られた知見や気づきを、今後の研究活動や日々の実践に生かし、医療・介護・福祉サービスのさらなる質の向上につなげていくことが期待されます。

第7回学術集会は、慈愛会 帆北修一副理事長（今村総合病院名誉院長）を大会長として、来年 2027 年夏に開催予定です。



大会長挨拶



次期大会長挨拶



入賞者発表は、慈愛会ウェブサイト「慈愛会学会」ページで



メイン会場



ディスカッション



活発な質疑応答や意見交換が行われました



口演発表の様子



ポスター発表の様子



発表を熱心に聴く参加者の皆さん



最前列左から 岩波先生、今村理事長、福田大会長、帆北副理事長、常盤院長（今村総合病院）、瀧川施設長（老健愛と結の街）

院内スマートフォン運用が本格化 — つながりやすい職場環境へ —

今村総合病院のDXを支える新たな情報基盤として、6月1日より看護部の業務用スマートフォンの運用がスタートしました。
稼働後の現場の反響や今後の展開についてご報告します。

1. PHS からスマートフォンへ：コミュニケーションの進化

これまでのPHSを中心とした連絡体制からスマートフォンへと移行することで、現場の情報共有が変わろうとしています。導入された電話帳アプリ「オフィスリンク」により、紙の電話帳をめくることなく、アプリ上で氏名から直接職員を検索して発信できるようになりました。現場からは「相手をすぐ検索でき、連絡が取りやすくなった」といった声が寄せられています。今後は業務アプリの活用も進め、いつでもどこでも必要な情報にアクセスできる環境づくりを進めていきます。

2. 導入初期の課題と、各施設の皆さまへの感謝

運用開始直後には、法人内の他施設から着信した際に発信元の電話番号が正しく表示されない等の不具合が発生し、関連施設の皆さまにもご不便をおかけいたしました。関係各所と調整を行い、現在は無事に復旧しておりますが、原因究明および暫定運用期間中には多大なるご理解とご協力をいただきましたこと、この場を借りて心より感謝申し上げます。

3. 単なる連絡手段を超えて：医療DXの基盤として

スマートフォンは、決して単なる「新しい電話」ではありません。今後「チャット機能を活用した連携」「音声認識による記録支援」など、次世代の医療DXを実現するための重要なプラットフォームです。将来的には「電子カルテシステムとの連携」も見据え、入力や転記にかかる手間を削減することで、医療スタッフが本来の業務である「患者さんと向き合う時間」に集中できる環境を創出します。

4. 慈愛会全体への広がりを見据えて

今村総合病院では、7月1日から医師へのスマートフォン導入を開始しています。今後も現場の声を確認し、段階的に改善を進めていきます。総合病院での取り組みは、一つの病院にとどまるものではありません。「業務を減らし、医療を増やす」という共通のビジョンのもと、現場で得られた成功事例や運用の知見を、将来的には法人内の他施設へも横展開していく計画です。慈愛会全体のより良い職場環境と、質の高い医療・介護を支える一助となれればと考えています。





PGI Mentor of the Yearを受賞して

今村総合病院 眼科 網膜センター長 坂本 泰二

このたび、インドの**PGI (Postgraduate Institute of Medical Education and Research: PGIMER) から、「Mentor of the Year」**を受賞し、現地で受賞講演を行ってまいりました。

PGIは、インド・チャンディーガルにある国立の医学教育・研究・高度医療機関で、インド医学界を代表する最高峰の施設の一つです。1962年の設立以来、多くの優れた臨床医や研究者を育成し、診療・研究・教育のすべての分野で国内トップクラスの実績を誇っています。特に眼科学をはじめとする多くの専門領域で世界的な研究成果を挙げており、アジアを代表する医学研究拠点として国際的にも高く評価されています。

私がこのような賞をいただくことになったきっかけは、硝子体手術に関する研究です。私は、「網膜硝子体手術が難しい最大の理由は、硝子体が透明で見えないことにある」と考え、2000年頃から、粒状のステロイド薬であるトリアムシノロンを用いて硝子体を可視化する手術法を考案し発展させてきました。

この方法は、硝子体を見やすくするだけでなく、ステロイドの抗炎症作用によって術後炎症を大きく軽減できることから、さまざまな手術に応用され、現在では世界中に普及しています。世界各国の教科書にも掲載される標準的な手術手技となっており、今村総合病院でも日常診療で実践しています。

同法の開発に対しては、以前に欧州網膜学会からKreissig Awardをいただいたことがあります。しかし、今回インドからこのような栄誉ある賞をいただけるとは全く予想しておらず、大変感激しました。

今回の印象に残ったのは、インドの若い医師や研究者の熱意です。厳しい競争を勝ち抜いてきたこともあり、非常に優秀で積極性にあふれており、日本も決して安心してはいられないと強く感じました。

開催地チャンディーガルは、フランスの建築家ル・コルビュジエが設計した近代都市として世界的に知られ、インド有数の教育・研究都市でもあります。インドというと、デリーのような大都市を思い浮かべる方も多いと思いますが、チャンディーガルは街並みが整然としており、気候も比較的涼しく、欧州の都市を思わせる雰囲気でした。インドを訪れる機会があれば、ぜひ一度足を運んでいただきたい魅力的な街です。



受賞の様子



記念講演の様子。白いマフラーをするのが礼儀のようです。



ホテルの前の早朝の散歩。インドとは思えない涼しさでした。



今村総合病院
Instagram

第7回心に届く慈愛の物語を紡ぐ会 選考結果

(2026年5月30日、鹿児島県市町村自治会館にて開催)

最優秀賞 宮内 幸子 (笹貫訪問看護ステーション愛の街 看護師)
「どこにも行かないけれど」

優 秀 賞 今村 勇斗 (いづろ今村病院 看護師)
「揺れる心のそばで」
川井田 遼之 (谷山病院 事務職員)
「誰かの心の支えになっている」

入 選	久保 里緒菜 (いづろ今村病院 看護師)	「最期の時間に寄り添う看護ーエンゼルケアを通して学んだ看護の意味ー」
	浜辺 恵里香 (今村総合病院 看護師)	「卒業式へつなぐ、最期の看護」
	福田 美幸 (今村総合病院 看護師)	「手のひらにのせた想い」
	福元 優一 (今村総合病院 看護師)	「患者を通して芽生えた、私の看護観」
	白井 真莉 (谷山病院 医師)	「確かな温もり」
	吉富 海斗 (谷山病院 ナースエイド)	「慈愛の心」
	白石 三保子 (徳之島病院 看護師)	「ピンクのマフラーは私のお守り」
	山添 裕美 (愛と結の街 介護福祉士)	「振り袖を見せるために会いに来てくれた日」
	落合 明子 (鹿児島中央看護専門学校 専任教員)	「涙をこらえられなかった理由ー教員として立ち会った看取りー」
	日高 愛梨 (鹿児島中央看護専門学校 看護学生)	「五・七・五が繋いだ距離」
	脇 理奈子 (鹿児島中央看護専門学校 看護学生)	「小さな約束ー実習を通して学んだ非言語的な関わりの大切さー」
	中村 弘美 (法人事業本部 看護師)	「忘れられない温かな記憶」



「看護業務功労者」鹿児島県知事表彰

笹貫訪問看護ステーション愛の街の中菌明子顧問が、長年にわたり地域の保健医療の向上発展に尽くした功績をたたえられ、鹿児島県知事表彰を受けました。表彰式は2026年5月14日、鹿児島県庁で開催されました。

中菌顧問は精神科看護のスペシャリストとして活躍し、日本精神科看護協会の副会長も務めています。



2026年度 永年勤続表彰

(省略)

私たちの取り組み紹介



鹿児島中央看護専門学校

慈愛会学生紹介制度について～2027年度入学生募集！～

本校では学生募集の取り組みの一環として、法人職員対象の『学生紹介制度』をスタートしました。ご家族やお知り合いに看護師を目指す方がいらっしゃいましたら、是非本校をご紹介ください！キャリアチェンジを検討している社会人の方々も大歓迎です。

◎ご紹介特典◎

受験生：入学検定料10,000円を全額免除

紹介者：本校より粗品謹呈（受験生が入学試験に合格し、入学した場合）

※慈愛会職員を紹介した場合は本制度の対象にはなりません。（ただし出願時点で慈愛会に在職している職員には入学検定料全額免除の特典があります！）

申込方法：右記二次元コードよりお申し込みください。

申込期間：推薦入試：9/17～10/9

一般・社会人・特別入試：10/23～11/13

※二次・三次募集を実施する場合にはあらためてご案内します。



←申込フォーム：9/17 OPEN

◎2027年度入学生の願書受付期間と入学選考日程◎

入試区分	願書受付期間	入学選考日
推薦入試	2026.9.24～10.16	2026.10.24
一般・社会人・特別入試	2026.10.30～11.20	2026.11.28

慈愛会職員

- ・学生紹介申込フォームから申し込む
- ・受験生へ「**受験料が全額免除になる**」ことを伝える

受験生

- ・インターネットから出願
- ・郵送書類を提出
- ・**受験料は全額免除**

本校

- ・出願内容、郵送書類を確認
- ・出願受理

受験料は表示されますが、入金は不要です。誤って受験料を入金された場合、返金はできません。

※入試に関する詳細は本校ウェブサイトへ→



事業戦略本部

「慈愛会サポーター」募集！

当法人では、広く寄附金を募り、地域福祉の充実や公益目的事業の推進に活用しています。このたび、2026年4月からオンライン寄附受付システムを導入し、新たな寄附の仕組みとして「**サポーター制度**」を開始しました。一般の都度寄附に加え、毎月または毎年、一定額を継続してご支援いただける制度で、少額から気軽に参加できることが特徴です。公益法人である当法人へ寄附された方には税制上の優遇措置が適用されます。

継続的なご支援は、安定した事業運営につながるだけでなく、当法人の活動を身近に感じ、応援して下さる「慈愛会ファン」の輪を広げる大きな力となります。職員の皆さんにも制度をご理解いただき、ご家族やご友人など、当法人の活動に共感いただける方へぜひご紹介ください。

一人でも多くの皆さまに慈愛会の想いが届き、支援の輪が広がることを期待しています。

小さな支えを、未来の大きな力に。

慈愛会サポーター制度

2026年4月スタート

少額から始められる
毎月500円～
毎年3,000円～

継続的な支援で活動を応援
安定した運営やサービスの向上につながります

かんたん・便利なオンライン寄附

あなたの想いが、誰かの笑顔につながります

ご寄附者は税制上の優遇措置が受けられます

キャッシュレス決済OK

ご寄附はこちらから

慈愛会が委託している寄附受付システム「congrant」のサービスページに遷移します

慈愛会Webサイト寄附案内ページ

事業戦略本部 危機管理室

ハラスメント研修会受付中

職場におけるハラスメントは、働く人が十分に能力を発揮することの妨げになることはもちろん、個人としての尊厳や人格を不当に傷つける等の人権にかかわる許されない行為です。危機管理室では、働きやすい職場づくりを目指して、ハラスメント研修会を実施しています。場所確保、参加者呼びかけ、パワポの準備などをお願いして、数名単位の少人数から受け付けています。

【研修内容】

- 職場における3つのハラスメント（パワハラ、セクハラ、マタハラ）と具体例

- ハラスメントが職場に与える影響

- より良い職場づくりのためのコミュニケーション

- 当法人における主なハラスメント防止対策 等

所要時間は全職員向け（25分）＋幹部向け（15分）となっています。各種会合やミーティングの隙間時間にぜひ組み入れてください。キャンセルや変更も対応可能です。

その他交通安全に関する研修もお気軽にご相談ください。





私たちの取り組み紹介

SST (Social Skills Training) 本格導入に向けて

奄美病院

SSTのスキル高める機会に ー基礎から最新のVR体験までー

奄美病院では職員のスキル向上を目的に、2つのSST研修を開催しました。

5月16、17日はSST普及協会認定講師を招いた初級研修会があり、計60名が受講しました。SSTとは対人スキルを習得する認知行動療法の一つ。座学で基礎を習得したほか、ロールプレイでは実践的な演習を行い、今後の支援に活かせるような多くの気づきを得る貴重な機会となりました。



VRゴーグルを装着し、バーチャル映像を視聴。「没入感がすごい」との感想も

また、6月17日には大塚製薬株式会社のご協力でVR-SST体験会が開かれました。このプログラムは、バーチャル映像を視聴しながら学ぶトレーニング教材で、社会生活のさまざまな場面が再現されます。参加者は当事者の視点を疑似体験し、臨場感あふれる先進的な試みを体感しました。

今回の学びを日々の業務に還元し、より質の高いサービス提供に努めていきたいと思います。



ロールプレイの一場面。活気があふれ、楽しみながらスキルを高めていました

徳之島病院

リアルな視点で学ぶソーシャルスキル

4月のSST初級研修に続き、6月16日に大塚製薬株式会社によるソーシャルスキルVR「FACE DUO」の体験会が開かれました。VRゴーグルを装着すると、当事者が社会生活で直面する様々な場面がショートドラマのように再現されます。バーチャル映像は当事者の視線で開発されているため、距離感がとてもリアルで臨場感があり驚きました。



実際の場面さながらのVR映像で、支援のポイントを学びました

「FACE DUO」のような支援プログラムは、当院のように身近に研修の場が少ない、指導者がいないなどの問題を解決でき、経験の少ないスタッフでも活用が容易で、何度でも繰り返し見ることができる点でも大変便利だと感じました。

私たちが社会で人と関わりながら生きていくためには、ソーシャルスキルの獲得が必要です。自分が望む社会生活を送れるように、支援者も当事者も共に学んでいきたいと思います。



「FACE DUO」で当事者の視点を体験

谷山病院

モザイクアートがつなぐ笑顔の輪

谷山病院デイケアでは、プログラム「モザイクアート」の実施にあたり、週1回曜日は固定せず、興味関心のある利用者が一人でも多く取り組めるようにしています。見本があれば利用者自ら下絵を描き、お花紙を丸めたり貼ったりする作業に専念できています。利用者同士で何気ない会話を楽しみつつ、作業自体がコミュニケーションツールの一つとなり、完成することで達成感が得られています。毎年開催の「心で描く絵画展」出展に加え、他部署からの提案により外来受付窓口にも月替わりで展示し、より多くの方々の目に触れる機会を得られたことで更に利用者の意欲が向上しました。他部署職員も楽しみにしていることから、今年は院内カレンダーを作成、「室内が明るくなった」「心が和む」との嬉しい言葉を頂き、他者に評価されることもモチベーションアップに繋がっています。



利用者の皆さんが力を合わせ完成させた作品が、院内に笑顔と彩りを届けています



一つひとつ丁寧に貼り合わせたお花紙が描き出す美しい花火

今村総合病院 より

新たながん治療の選択肢、CAR-T細胞療法

今村総合病院は2026年2月、「CAR-T細胞療法実施施設(アベクマ®、ブレヤンジ®)」に認定されました。患者さん自身の血液からT細胞を当院にて採取し、製造施設に送付のうえ、CARを発現したT細胞(CAR-T細胞)を作製、品質検査をし、当院へ届きます。届くまでの間、患者さんは病気のコントロールを目的に化学療法を受ける場合があります。CAR-T細胞が届きましたら、リンパ球減少を目的とした化学療法を行い、届いたCAR-T細胞を投与します。以上が、がん細胞を攻撃する新しい治療法であるCAR-T細胞療法です。今後、当院の血液内科・輸血管理室におきまして、安全管理体制のもと、対象となる血液疾患の患者さんへの治療選択肢の一つとして提供してまいります。

“ちょうどいい” 脳ドックが新登場

2026年7月より新しい脳ドックコース「セレクト脳ドック～医師が考えた、ちょうどいい脳ドック～」を開始しました。脳卒中や認知症などが気になる方に向け、MRI・頸部超音波・もの忘れ検査など必要な検査を厳選。受けやすさと安心感を両立した内容です。新プラン誕生に伴い、2027年3月まで利用できるクーポンを公式LINEで配布しています。



脳ドック紹介の
Instagram



こどもの目の健康を守るために

今村総合病院 眼科統括部長の土居範仁医師が、KTS鹿児島テレビ「Live News」とMBC「ニューズナウ」の取材を受けました。近年問題となっている「こどもの視力低下」や、「夏休み前に知っておきたい、子どもたちの目について注意する点」をテーマに、視力低下の現状、日常生活で気をつけたいポイント、早期受診の大切さなどを専門医の立場から分かりやすく解説しました。



KTS取材時の
Instagram

高校生ボランティアが彩る病棟の四季

2026年7月24日、高校生ボランティア・職場体験の受け入れを行いました。精神科病棟では、患者さんが季節を感じながらレクリエーションを楽しめるよう、春夏秋冬のモニュメントを制作。看護師の思いから生まれた企画を高校生の力で形にし、患者さんだけでなく職員を支える活動にもなりました。今後も医療の現場を身近に感じる機会を大切にしていきたいと思います。



高校生ボランティア&職場体験
Instagram



第5回かもいけ健康まつり

2026年10月24日(土)開催
13:30～16:30(飲食店は11:00～)

募集期間:2026年9月1日(火)～9月30日(水)

高校生ボランティア募集!

第5回かもいけ健康まつりの運営をお手伝いいただく高校生ボランティアを募集します。対象は慈愛会職員のご家族で、高校生の方。来場者の案内や各ブースのサポートなどを通して、地域の皆さまと触れ合いながら医療や健康について学べる機会です。皆さまのご応募をお待ちしています。



申込フォーム

徳之島病院 より



鹿児島大学看護学生の実習受け入れ

「離島・へき地看護実習」の学生6名を受け入れ、訪問看護ステーションわたりどりのスタッフと共に訪問看護の現場を体験していただきました。学生の熱心さや素直な問いかけに触れ、私たちも初心を思い出し学びを得ました。離島ならではの多職種連携や地域文化を伝える中で、自身の仕事での大切にしている価値観を振り返る機会となり、未来の看護師がここ徳之島を選び学んでくれたことに大きな喜びと誇りを感じました。

未来の作業療法士を育てることは、地域の未来を支えること

当院は日本作業療法士協会認定の臨床実習指導施設として、毎年福岡・鹿児島の養成校から実習生を受け入れています。未来の作業療法士と学び合う中で私たち自身も成長し、一人ひとりの患者様に、寄り添う質の高い作業療法を追求しています。



鹿児島中央看護専門学校 より



笑顔あふれる看護体験！オープンキャンパス

6・7月で4回にわたりオープンキャンパスを開催しました。体験内容は例年通りですが、参加者は楽しみながら看護体験を行いました。アンケートでは、学校の雰囲気や在校生・教員との交流を評価する声や、看護師を目指す気持ちが強まったという感想が多く寄せられました。この体験をきっかけに、一人でも多くの方が看護師を志していただけることを心から願っています。

イベントのご案内

愛と結の街 より

あいゆいマルシェ

2026年11月15日(日)、「第4回 あいゆいマルシェ」を開催します！地域と笑顔でつながる、多世代交流イベントです。人気のキッチンカーや新鮮な野菜・米の販売、スタンプラリー、リハビリ体験などお楽しみが満載！オープニングを飾る吹奏楽演奏や、「スイートポテトの振る舞い」もお見逃しなく。今年は開設30周年記念講演も同時開催。どなたでもお気軽にお越しください！



いづろ今村病院 より



2025年開催時の様子

いづろ健康・介護まつり

2026年11月21日(土)、名山校区コミュニティ協議会との共催で「いづろ健康・介護まつり」を開催します。健康・介護について気軽に相談できるコーナーやミニコンサート、絵画コンクール、市民公開講座等楽しめる催しを準備中です。ご来場を心よりお待ちしております！



偉人の病歴から見た 健康のススメ

歴史探究の達人

いづろ今村病院健康管理センター 医師
濱田 陸三 さん

昨年末、南日本新聞社から突然の電話がありました。有名人の死因について、医学的見地から連載記事を書いてくれと言うのです。歴史と健康に興味を持つ一定の読者層があるそうで、この層を対象にした企画とのことでした。

なぜ私にこのような依頼が来たのか不思議でしたが、一つ思い当たることがありました。

自分では、歴史が好きだとか、歴史に詳しいなどと思ったことはありませんでしたが、日々の会話からそのように思われていたのでしょうか、以前ある医学雑誌から「歴史上の有名人と脳卒中」というシリーズで、篤姫についての原稿依頼があり、一文を書いたことがあったのです。

怖い物知らずで引き受けたものの、それまで掲載されたものを見てみると、錚々たる執筆陣で内容も素晴らしいものばかりでした。これは大変、と篤姫や大奥に関する本を買い込み、鹿児島県立図書館や鹿児島県歴史資料センター黎明館、磯の尚古集成館まで出かけて資料を集め、また発病当時の気象状況を気象庁に問い合わせたり、天璋院と親交のあった勝海舟の著作を調べたりと、苦勞の末ようやく書き上げました。

多分これが新聞社の目に触れての今回の依頼だったのでしょう。しかし、一つの原稿でこれだけの労力が必要ですから、新聞連載などとても無理ですと、一旦は断りました。それでも折角声をかけていただいたのだからと思い直し、試しに3回分を書いて打ち合わせを行いました。その席で、大変面白い、是非この調子で続けてほしいとおだてられ、今年の1月から、南日本新聞に「病歴をたどる 先人たちのカルテ」として、月1回1年間連載することとなりました。連載もようやく半分を越えましたが、幸い読者からは好評とのことでした。

最近では新聞を購読していない人も多いようですが、スマホでニュースや SNS を見るだけではなく、紙ベースで活字に触れることも脳科学的には大切です。月に一度くらいは拙文が掲載される第一金曜日に新聞を手にとってみていただけると幸いです。



2026年2月6日付 南日本新聞朝刊掲載

私とフィロソフィ

慈愛会フィロソフィver.2 全41項目の深化に向けて



第6回

奄美病院

奄美病院事務部では毎週木曜日の朝礼時に、司会者がフィロソフィを1項目読み上げております。フィロソフィはVer.1からVer.2となりましたが、本質的なものは変わらないまま、今の時代だからこそ必要なことなどが盛り込まれており、これまでを振り返りながらもまた新しい気付きを与えてくれていると感じております。

運命は自分で切り開く

仕事に限らず、日々生活していれば必ずと言っていいほど、壁にぶつかったり、苦境に陥ってしまったりと困難な場面に直面してしまうものかと思えます。ですが苦しい時ほど、周りの人に助けられたり、誰かの思いによって支えられていることに改めて気づかされます。仲間の思いを抱き、自らの強い意思を貫きながら、立ち止まらずに進み続けければ、いつかきつと乗り越えていけると信じています。

冊子抜粋 第24項 運命は自分で切り開く

切羽詰まった状況の中であっても、前向きかつ真摯な態度で物事にぶつかっていくことで、人は普段では考えられないような力を発揮することができます。困難は避けて通るものではなく、乗り越えるべき障壁です。

自分の力では如何ともし難い「宿命」を、努力と意志によって、動き変化する「運命」に変え、その運命を自分の力で育て、「立命」にしていることによって自らの人生をより豊かなものへと開花させることができるのです。

困難な状況に遭遇しても、きっとやれると強く信じ努力を続けていると自分でも驚くような成果を生み出すことができます。道は心にあり。心を探究して本来の自己を自覚することが大事です。運命は自分で切り開くことができるのです。

在宅医療

リレーエッセー

20

みま森で学んだ“寄り添う看護の力”

看護小規模多機能型居宅介護事業所 みま森



看護小規模多機能型居宅介護事業所「みま森」で勤務して1年が経過しました。

ここは病気や障害を抱えながらも住み慣れた地域で自分らしく一生懸命生きておられる方々との出会いがある場所です。末期がんで全身転移のある利用者を支援した経験は、在宅医療を深く考える機会となりました。Aさんは疼痛だけではなく、一人で過ごす時間への強い不安から一日に何度もナースコールを押されました。私たちはその背景にある「孤独」を理解し、主治医(いづろ今村病院)訪問看護(節愛)と連携しながら、薬の調整と精神的支援の両面でチームとして関わりました。事業所内でもスタッフ全員が声掛けや見守りの方法を統一し、Aさんの「辛い、苦しい」という思いを受け止め続けました。家族も不安を抱えていましたが状態やケア方針を丁寧に説明することで、支える覚悟と穏やかな受容がされていきました。最期の場所についても何度も話しあい、Aさん自身が「ここがいい」とみま森を選ばれました。最期の時間を共

に過ごし、ご家族から「ここで見送ることができてよかった」と伝えられたとき、看護小規模多機能の柔軟な支援が、利用者の望みと家族の思いをつなぐ力になれたことを実感しました。在宅医療は、痛みを和らげるだけではなく、人の不安や孤独に寄り添い、自分らしく生きたいという思いを実現していくことが大切であることを教わりました。



慈愛会職員 人事情報

氏名 職種 新役職 / 新所属 (旧役職 / 旧所属) の順
※は異動を伴う就任

(省略)

編集後記

2026 年も後半に入り、夏の暑さが一段と厳しくなってきました。皆さま、いかがお過ごしでしょうか。今号では、院内スマートフォンの導入をはじめとする医療 DX の推進や各種受賞、地域との温かい交流イベントなど、多彩な取り組みをご紹介しました。

デジタル化や技術革新化が進む中であっても、私たちが根本的に大切にしたいのは「患者さんや地域に寄り添う心」です。編集を通して、その思いを改めて実感いたしました。

「Professional」は、これから皆さまに親しみを持って読んでいただける広報誌を目指し、さまざまな情報をお届けしてまいります。本誌が皆さまにとって慈愛会をより身近に感じていただくきっかけとなれば幸いです。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

谷山病院 総務課 松山匡博

Professional^{達人}

慈愛会報 [プロフェッショナル]

2026 年 8 月 Vol.41

発行：公益財団法人慈愛会

編集：Professional 編集委員会

事務局：慈愛会 事業戦略本部



公益財団法人 慈愛会
<https://www.jiaikai.or.jp/>



慈愛会
公式Facebook